

教育出版 音楽 I Tutti (音 I 307)

年間指導計画・評価規準例

芸術科「音楽 I」 シラバス	単位数	2 単位	担当者	
	学科・学年・学級		科第 学年 組	
	使用教科書・副教材等		音楽 I Tutti	

1 教科の目標（講座のねらい）

- ・音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。
- ・音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。
- ・音や音楽を知覚・感受し、思考・判断する能力をはぐくみ、表現と鑑賞の能力を伸ばす。
- ・音楽と生活とのかかわりについて考え、音環境への関心を高める。
- ・中学校音楽科の学習を踏まえ、楽曲固有のよさや美しさなどを味わうだけでなく、文化的・歴史的背景についても理解し、広い視野で音楽を捉えて、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。

2 育てたい生徒像

「音楽 I」では、生涯にわたって音楽を愛好していこうとする心情の育成を重視したい。そのためには生徒一人一人が個性を生かして音楽の幅広い活動を行い、音楽のよさや美しさなどを感じ取って、そこに価値を見いだすことのできる感性を高めていくことが重要である。また、中学校音楽科の学習を踏まえ、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を深化させ、音楽の文化的・歴史的背景、作曲者及び演奏者による表現の特徴など広い視野から音楽を捉える。

特に、生徒が日頃から趣味として親しんでいる音楽のみ経験するのではなく、我が国及び諸外国の様々な音楽を授業の中で幅広く学習することで、音楽を多様な観点から捉えられるようになると同時に、主体的にかかわりをもつことができるようになっていく。

3 授業の内容と学習方法

- (1) 独唱・斉唱から合唱まで多様な表現形態を通して、日本語や外国語の歌詞を味わい、曲種に応じた発声に気を付けて、歌唱表現を行う。
- (2) 日本の伝統音楽や世界の各地域の諸民族の音楽の特徴を知り、音楽のよさや美しさなどを感じ取って、共通性・固有性などに気づく。
- (3) 和楽器やリコーダー、ギターなどの基礎的な奏法を身に付ける。また、独奏や重奏、合奏、身体表現など様々な表現形態を体験する。
- (4) 表現したい音楽のイメージをもって音や音楽の質感を感じ取り、音楽の仕組みを理解しながら、音楽を構成していけるよう創作活動に取り組む。
- (5) 音楽史に沿って各時代の特徴を学んだり、舞台芸術作品を鑑賞したり表現活動を行ったりして、音楽の多様性や美しさ、他芸術との関連などに気づく。
- (6) 音楽を形づくっている諸要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、それらが楽曲をどのように特徴づけているかに気づき、思考・判断して創造的な表現、鑑賞を行う。

Tutti I 年間指導計画・評価規準例

[illegible]